資料３

〇委員の主な意見と対応状況について

区分	項目	委員からの御意見	現状・報告・対応方針
全体	各戦略の整合性	・広範囲で網羅的である本戦略における各取組間の整合性を踏まえて、**どう優先づけてやるべきか**を考えると良い。 ・**「健康寿命日本一と労働生産性日本一」を軸に**優先順位をつけて取り組むことが必要	・「静岡県の健康寿命の延伸」と「食料品等の付加価値労働生産性向上」を達成するため、令和４年度は、**ヘルスケアに重点的に取り組む**とともに、先端技術を活用し食に関する課題解決を図る**フードテック**に新たに取り組んでいる。
	プロジェクト成果	・事業化された製品が、**売れているか**どうかを紹介してほしい。 ・戦略検討委員にアイデアや知見を出してもらい、プロジェクトを代表する**ヒット商品を出す**ことで本プロジェクトの認知度も上がる。 ・**もっと支援の成果などをＰＲ**した方がよい。	**【売上げ金額等の把握】 → 資料２**を参照 ・助成金を活用した**製品の売上げを３年間**確認 ・商談会支援については、**商談件数と１年後の商談成立件数と成約額**を確認 **【事例：製品の販売状況】** **→資料１のスライド 13** にて紹介
		・事業化件数が伸びている**ヘルスケアについては、支援の強化や目標の上方修正**を議論した方が良い。	・**事業化件数**については、**静岡県総合計画の指標に合わせ、40 件/年を 54 件/年に上方修正する。**
戦略１ きわめる	先端産業創出プロジェクト間での連携	・各支援機関が運営するフォーラムに参加する会員間の交流により、**一層オープンイノベーションが盛んになる仕組み**を作ってはどうか。	・企業の困りごとや協業の相談等、さまざまなメンバーとの交流の場である**「しずおか産業創造プラットフォーム」への企業の参加を促進**している。
戦略２ つくる	製品開発支援	・企業は、補助金の自己負担金分を出すかも躊躇するため、**成功確率を上げるためのサポート**が必要 ・事業化を進めるために、**アドバイスやコンサルティングができる方が必要**	・令和５年度の新規事業として、**県外企業等との協業による新事業創出を促進するため、外部専門事業者による事業計画作成やマッチング支援**を行う。
	県産農林水産物や地場産業を活用した製品開発の促進	・静岡県には、**「災害食」**に取り組んでもらいたい。 ・**機能性災害食は、静岡らしさとこれまでの取組が生かせる。** ・農業は、**土づくり**が大切、はじめに土ありき	・令和４年度に**フードテック活用検討会**を開催し、目指すべき方向性を決定した。その１つとして**「「防災先進県」静岡をアピールできる災害食」**があり、令和５年度にワークショップ等の活動を通じて製品開発を進める。 ・また、**未利用食材を含め地域の食材を最大限に活用できる仕組み（システム）の構築**を目指す。 ・県農林技術研究所にて**「食品残渣を活用した土づくり**（土壌研究）」を実施
	あらゆる角度からの付加価値の向上（フードテック）	・**フードテックは今後のキーワード**になる。高い確率でタンパク質不足になる。**静岡の中小企業も技術等があれば可能性がある。** ・取組分野は目標に掲げる**「健康寿命日本一と労働生産性日本一」を判断軸に**すべき。また、**課題解決とともに「技術」を外に売れるもの**がよい。 ・短期的な取組に終わらず、**社会的な仕組み（システム）まで構築**できるとよい。	
戦略３ いどむ	データヘルスの推進	・データの利活用では、国との連携が必要であり、**データの精度の高さ**が求められる。 ・**「静岡社会健康医学大学院大学と一体となったヘルスケアビジネスの創出」**については、しっかりと準備をすれば、食と健康に関連する良いデータが収集できる。 ・事業化には、**リビングラボの強化やコーディネーターによる伴走支援**が有効である。 ・健康のイメージがつくことで静岡県の商品価値も上がるので、**「健康寿命日本一を目指す」という対外的にわかりやすく具体的なアクション**を起こすことが必要 ・**データヘルス**については、すでに多くに大手企業が参入している業界であり、**中小が取り組むには難しいと思う。** ・データがあっても企業は集まらない。**データコンサルやデータサイエンティストが必要** ・データ活用に積極的な市町があると思うので、そこを**先行モデルとして県が主導してユースケース（実例）を出していく**のが重要	・令和４年度は、ヘルスケア分野のコーディネーター活動を強化するほか、**ヘルスケアビジネスの事業化のための補助金を新設**した。 ・**事業可能性調査６件、事業化実証２件**を採択した。 ・企業向けに静岡社会健康医学大学院大学を紹介する説明会を実施 ・県内の大学や産業支援機関のデータサイエンティストとの協力体制構築を検討していく。

区分	項目	委員からの御意見	現状・報告・対応方針
戦略３ いどむ	リビングラボ	・データの収集はなんでもできるわけではないので、**収集データも絞ってはどうか**。 ・**得意な領域**を作り、「そのための場」であるとした方が利用を検討する企業としては理解しやすいのではないか。 ・リビングラボに参画することで、最新技術を持つ企業とのネットワークを活用できるなどのメリットがあると企業も関心を持つと思う。	・令和４年度は、**リビングラボの窓口を県立大学から県産業振興財団に移管**し、相談から研究開発、製品化まで、事業化に向けた支援のワンストップ化を図ることにより、リビングラボを活用した事業化を支援した。 ・県立大学が運営するリビングラボにて、**新規商品・サービス開発に向けたワークショップを開催**（２回）
	健康課題に対応した製品・サービスの開発	・向こう 40 年間は、高齢者の数は減らないので、**一定の需要が見込める領域**である。急速に高齢化する東南アジアなどの海外への展開もできる。	・令和４年度は、静岡県菓子工業組合との共催で「機能性おやつ」をテーマに企業交流会（セミナー及び商品展示）を実施した。 ・令和５年度は、**健康に資するおやつなどの具体的な商品づくりを支援**していく予定
	おいしく、健康をもたらす製品	・平均寿命に健康寿命を近づけるためには、オール世代フレイルを考えるべきであり、対策として**機能性おやつ**に取り組んでほしい。	
	ヘルスケア産業の創出	・ヘルスケアは、幅が広く、多くの企業が関係できるため、**食以外も含めて企業の掘り起しが必要** ・**消費者とスマートミールを繋ぐインターフェイスをつくる**ことで広がっていくと思う。自然な食事のなかで健康になれるのが目指す姿である。 ・企業にとって、参加しやすくて県民にもわかりやすい取組があるとよい。 ・「食で健康にする」という本来の考えに戻り、「消費者に**いかによい食を提供するか**」を考える必要がある。	・県内企業を対象に提供するヘルスケア商品や技術について、**アンケート調査を実施**した。（回答：64 社） ・県内でも、スマートミールの認証が広がっており、県立大学でスマートミール基準を満たした商品開発を支援
戦略４ とどける	マーケットインの発想による販路開拓	・いいものを作っても売れなければ、価値にならないので、**流通・販売の機能強化**が必要ではないか。 ・**最終消費者に届けるところの取組が欠けている**。届けてこそ、県内も健康寿命が上がっていくので、県内の流通業者に参画してもらうのが良い。 ・**「モノ＋提案、暮らし提案してほしい」**と消費者は思っている。**店舗に健康ライフ提案などの「静岡健康コーナー」を設け**、面として販路を作ってはどうか。 ・「美味しい」や「扱いやすい」だけでは売れないので、**ストーリーを持った商品づくり**が求められる。 ・**流通側が売りやすい（仕入れたい）と思うものを作っていく**。静岡は製造業者が多いので、流通事業者と一緒に**健康をテーマとした商品**をすべて静岡で製造できるのではないか。 ・「生産寄りの取組」から「ブランディングやマーケティング」に資金を投入する必要がある。	・静岡県の食に関する情報を集めたサイト「**バイ・シズオカ オンラインカタログ**」の取組や**首都圏でのテスト販売**等を通じ、新たな販路開拓を支援している。 ・**プロジェクトの成果品を活用した健康生活提案**による販路拡大に向けて検討中
	情報発信	・県内の事業者にこの**活動を広くＰＲ**することが必要ではないか。それにより関連する多くの事業者が関心を持ち、このプロジェクトも活性化する。 ・戦略検討委員やフォーラムのメンバーに**メディアを参画**させてはどうか。	・FHCaOI フォーラムへの参加者は、**令和４年度に 37 会員増加**している。
戦略５ そだてる	人材育成	・**「健康イノベーション教育プログラム」**は、受講者からの評価が高かった。今後も、このような機会を設けてほしい。	・令和４年度からは、同プログラムをカリキュラムを一部変更した上で引き続き県立大学にて実施している。 ・**令和５年度も継続実施の予定**